

第 2 4 回黒部市行政改革推進市民懇話会 質問、意見、指摘事項とその対応

(発言順不同)

番号	区分	発言の内容等	委員名	対応状況（会議での回答）	摘要（補足説明、今後の方針等）
1	白書全般	事務局訂正（語句の統一）		①P11 の 7 行「配管設備などの大規模改修、」 →「配管などの部位・設備、」 ②P11 の 8 行「いたるところでの修繕が必要に」 →「いたるところでの改修が必要に」 ③P12 の 15 行「修繕などの処置を施す方法」 →「改修などの処置を施す方法」 ④P76 の 29 行「修繕履歴、」 →「改修等履歴、」 ⑤P76 の 32 行「修繕・更新周期」 →「改修周期」 ⑥P77 の 23 行「長寿命化の考え方に基づく修繕・更新、」 →「長寿命化の考え方にに基づく改修、」	ここでは大規模（中規模）といった改修の区分まで言及不要なため、単に「改修」という表現に統一します。 また、修繕は行政運営費の修繕費による軽微なもので、課題としている更新には含まないので「改修」に改めます。 「改修等」：「改修」＋「増築」 「更新」：「改修」＋「改築」 ⇒長寿命化の手法は改修のみ。
2	白書全般	「老朽化率」に改めたことで、「劣化度」という表現は、全く出てこないのか。	会長	出てきませんが、「老朽化している」とか「劣化が進んでいる」という表現はあります。	「老朽化」：古くなって使えなくなった状態（大局的） 「劣化」：品質が低下すること（部分的） と定義し、『全ての構造物は、時間経過による劣化により老朽化は避けられない。（作られたときから老朽化が始まる。）』との前提に立ち、次の例示のとおり「老朽化率」との整合性を図ります。 （例）建物の劣化（誤） → 建物の老朽化（正） 設備の老朽化（誤） → 設備の劣化（正） ○○は老朽化している、老朽化に伴う云々（誤） ⇒ 全てに言える。 ○○は老朽化が著しい、老朽化が進む云々（正） ⇒ 的を射ている。（程度を伴う表現） その上で、白書を次のとおり修正します。 ・P11 の 8 行「建築物は～、より経年劣化が進むことで、」 →「建築物は～、より広範な部分で劣化が進むことで、」 ・P11 の 9 行「建物の老朽化を早期に招き、」 →「建物の老朽化が早期に進行し、」 ・P13 の 9 行「施設機能（劣化状況、耐震性能等）や」 →「施設機能（老朽度、耐震性能等や）」 ※ P76 の『(2)長寿命化』文中の「劣化度」は、実際の点検、診断に基づく劣化状況を指すので、そのまま生かします。
3	No. 2 関連	事務局訂正		①P11 の 6 行「公共施設の「高齢化」の波が一気に押し寄せてくる」 →「公共施設の更新時期が一気に到来する」 ②P11 の 15 行「大量の公共施設が「高齢化」を迎える時代に、」 →「老朽化が進む大量の公共施設を、」 ③P75 の 2 行「公共施設の「高齢化」に伴う」 →「公共施設の老朽化の進行に伴う」	No. 2 の整理による「老朽化」との混乱を避けるため、施設にかかる「高齢化」という表現を無くします。 ※ 「I 現状と課題 > 1.人口 > (2)少子高齢化」における人口にかかる「高齢化」はそのまま生かします。

4	白書全般	白書は、次回で決定ということか。	会長	2月12日に次回会議を設定していますが、これを以って白書を承認いただき、行革本部で正式決定というスケジュールを考えています。	
5	白書 (P1) はじめに	白書作成の趣旨は、次回に提案となっているので、事前送付で内容を見て、当日コメントということでしょうか。	会長	白書全体を固めた上で、プロローグとして提案します。	
6	白書 (P12) (5) 改修及び改築に要する経費の試算	改築の費用算定を、工事費デフレーターを用いた復成価格としていたが、説明が難しいので変えたのか。	会長	資料3の考え方としました。	
7		数値が大きく変わったのは、算定方法を変更したからか。	会長		<p><前回> 改 築 : 628 億 9,300 万円 改 修 : 200 億 9,200 万円 合計 829 億 8,500 万円</p> <p><今回> 改 築 : 623 億 2,700 万円 事後保全 : 221 億 800 万円 耐震補強 : 14 億 4,900 万円 合計 858 億 8,400 万円</p>
8	白書 (P15~17) 4. 施設種別の 主な検討課題	資料4の視点については、次回の資料であって、白書では、ここまで踏み込まないということか。	会長	白書に続く取組みで、最初に整理すべき部分になると考えています。	
9		資料5には、「視点」、「データから読み取れる内容」、「主な検討課題」とあり、検討課題の表現の根拠となるのが「データから読み取れる内容」ということか。	会長	はい。	議論を踏まえ、P20~21のとおり【個票の見方】を見直します。
10		この「データから読み取れる内容」について、白書に記述すべきかどうか議論して欲しいということか。	会長	はい。	
11		利用やコストの状況の表現根拠は、「データから読み取れる内容」だが、どういう基準でこういう表記になっているか述べた方が良くはないか。	会長		
12		どこに入れるのですか。 本文にですか。	A 委員	<会長> 白書の中に。 例えば、P14の【施設種別の実態把握のデータの見方】。	
13		まとめてどこかにということですね。	A 委員	<会長> 結局、どうしてですかと言われそうな気がするので、記述しておけば良い。	

14	白書 (P20~P74) 施設個票 ◇施設の状況 ＜老朽度＞	前回(「劣化度」)から「老朽化率」に見直したことで、わかりやすくなったが、この計算方法は一般的なものか。	C委員	いくつか事例はありますが、一般的な方法かと言えば、なかなか苦しいところです。	議論を踏まえ、P20~21のとおり【個票の見方】を見直します。
15		築年数だけで「劣化度」とするよりは良いと思うが、この「老朽化率」を基にして次の展開があるのなら、根拠の数値として自信が持てるものでないといけない。	C委員	この「老朽化率」や「残存耐用年数」を「ものさし」として老朽化の状況を示していますが、「老朽化が著しい」という課題は、実際に調べないとわかりません。 ですので、この率(年)だからこうですという理由づけが無いと、何を根拠に「老朽化が著しい」という部分が出てくる可能性はあると思います。	
16		耐震化について、前回は該当区分に○を記入していたが、今回の「/」(スラッシュ)になっているのは、耐震化の必要がないものですか。	C委員	前回、新耐震設計基準施行以降に建設された建物を「対象外」としていましたが、今回は、「/」(スラッシュ)としました。	
17		どこかに注釈はあるのか。	C委員	P14の【施設種別の実態把握のデータの見方】にあります。	
18		「法定耐用年数」、「経過年数」、「老朽化率」、「残存耐用年数」の関係、表の見方について説明を聞けば理解できるが、一市民の立場で理解できるかどうか。表の見方等の説明があればありがたい。	D委員	<会長> 門外漢であっても何が示されているかわかるような資料でなければいけない。 概要版では、わかりやすいように対応して欲しい。	
19		大規模改修後の残存耐用年数は、違う表の改修等履歴と関係していて、一般の人が見ると「何の数字か」となるので、もっとわかりやすく示して欲しい。	E委員		
20	白書 (P75) Ⅲ 課題への対応	<p>今後は、白書を踏まえ、量的な見直しとして統合等を考えていくことになるが、反対に公民館や貸与施設、美術館などが利用者を増やすために、こういう努力をしていくといった前向きな意見を聞きたい。</p> <p>そのことで、老朽化や利用状況から簡単に結論づけるのではなく、もっと活用できる方法を考えることもできる。</p> <p>かなり老朽化しているのに、収入が増えている施設もあり、それが何故か、どういう努力をしているのか、そういうところを見て欲しい。</p>	D委員	<p><会長> 白書は、あくまでデータから見て取れる現況報告書であって、そういうことにも留意していくという観点は、どこかにあった方がよい。</p> <p>大変、貴重なご意見と受け止めます。 行革ですので、非効率的な施設を見直そうという議論になりますが、裏を返せば、施設の優れた部分を捉えて、もっと効率的に活用するという議論にもなると思います。 このように白書をまとめておりますが、市民のみなさんに説明していく過程で、さらに必要な視点が出てくるという点では、この白書が決まりきったものでなく、継続的に見直されていくものと考えております。</p>	<p>回答のとおり、「白書」策定後、市民の皆さんへ説明しながら次のステップで「再編に関する基本方針」や「再編に関する基本計画」を検討する過程でも、ご指摘の内容はもちろん、他にも必要となる視点が出てくるものと考えています。 「白書」に固執するものではなく、その都度、作成する計画等に反映するとともに、必要な場合は、「白書」にもフィードバックさせていただきます</p>
21	巻末資料	差替え資料は、何かミスがあったのか。	会長	<p>巻末の「公共施設配置図」のうち、旧宇奈月町についても旧黒部市同様に自治振興会単位の線引きを入れました。 白書の段階で、何かを意図しているものではありませんが、いずれエリアで施設立地を考えるとときに必要になる視点と考えています。</p>	